

老年症候群

「生理的老化」と「病的老化」

50種以上の症状の集まり

一人につき複数の症状

患者さん毎に経過が多様

老年症候群とは

短期で出現する状態

褥瘡(床ずれ)、誤嚥、失禁、

月単位で出現する状態

- 筋委縮、関節拘縮(関節が硬くなる)、

年単位で出現する状態

- 認知機能低下

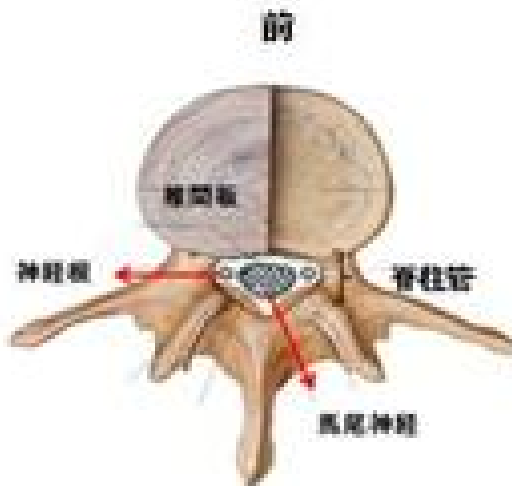
終末期に出現する状態

- 顔色不良、傾眠、注意力障害、
見当識障害、水・食事の減少、嚥下困難

脊柱管狭窄症

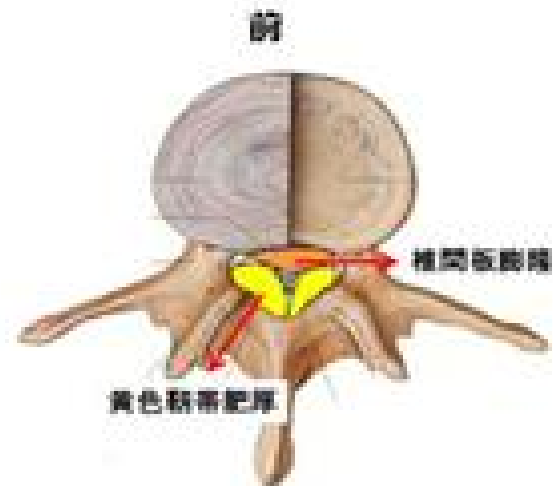
- *「坐骨神経痛」(足や尻にシビレや痛み)
- *「間欠性跛行」(長い距離を歩けない)

正常腰椎の横断面



馬尾と神経根が圧迫なく椎管を通る

腰部脊柱管狭窄症



椎管が狭くなり神経が圧迫される

保存療法(薬やストレッチなどリハビリ)

- 70%が改善
 - 痛みを和らげる薬、血流をよくする薬の服用
 - ホットパック、赤外線、マッサージで筋肉をほぐし、痛みを軽減
 - 脊柱管を広げる体操、ストレッチ
 - 腰椎の動きを制限するコルセット着用
 - 硬膜外ブロック、神経根ブロック注射
 - 整形外科医は手術を奨めるが、短所も多い。
-
- 鍼灸と漢方による療法はもっと推奨されてよい

脊柱管狭窄症外科手術のリスク

- 費用:

除圧固定術であれば40万円～60万円、
入院費用（1週間から2週間）など計100万円

- 高齢者に多い術中・術後の副作用

回復の遅れ

体力・筋力への影響

認知症、せん妄の発症

外科手術は確実な治療法ではない。